玖波中だより No.17

大竹市立玖波中学校　令和６年１月１６日

学校教育目標「自他を大切にし，主体的に考え行動できる生徒の育成」

発行責任者　小田　大介　　文責　藤川　健二

３学期始業式　式辞

新学期が始まり 10 日余り経ちました。新学期を迎え生徒たちは心を新たに日々頑張っています。３学期始業式の校長式辞を要約し紹介します。

３学期は『０』学期

３学期は，１年間のまとめの学期とも言われますが，それと同時に，次の準備をするための『０』学期だと思っています。特に，３年生にとっては大切な学期となります。３学期に向けて大切な２つについて話をします。

１　健康に過ごす

インフルエンザや新型コロナウィルス等の感染症が流行する時期です。一人一人が健康に気を配り，手洗い，うがい，換気等の基本的な感染対策を徹底しましょう。とりわけ３年生は高校入試，２年生は修学旅行が直前に迫っています。最高のパフォーマンスを発揮できる環境をみんなでつくっていきましょう。

２　夢の実現

「夢をもとう！」と何度もみなさんに語ってきました。２学期の終わりのアンケートで「将来叶えたい夢や希望がある」と肯定的に回答した割合は 81％でした。100％になればと思っています。中国新聞「ヤングスポット」に『夢がないことはチャンスである』という投稿がありました。なぜ，そうなのかの理由を考えることが夢に対する考え方や方法が見つかるのはないでしょうか。

２年生は最高学年へ，１年生は後輩が入学してきます。これまで３年生が継承し培ってきた伝統を「龍」のように力強く上昇させてください。そんな姿を３年生は期待しています。

生徒会新体制（執行部）決まる　　～襷は繋がる～

役員		専門委員長	
会長	堀井　大輔	学級委員長	門田　七海
副会長	町田　莉彩	図書委員長	大知　瑛太
会計	本山　鈴梛	生活委員長	藤井　祐人
書記	金行　こころ	保健体育委員長	伊藤　涼貴

１月９日(月)に生徒会専門委員長の認証式があり，正式に生徒会執行部が決定しました。これまでの玖波中学校の伝統を継承しつつ，進化する「自治の城」を築いてくれることを願っています。

旧生徒会会長が退任時に述べた右に記した，思いを新しいメンバーが引き継いでくれるものと思います。

生徒会長：岩塚　政忠　退任挨拶

１年前，生徒会長になった私はこの玖波中学校をよりよくしようと，やる気に満ちあふれていました。しかし，現実は，そんなにあまくありませんでした。一丁前な理想だけを持ち，みんなを引っ張っていくどころか自分のことだけで精一杯でした。案を出す時も自分の意見に自信を持った発言ができず，自分の思うようにいかず自分の弱さを思い知っていく日々で，自分ではこの学校を変えられないんだと思いました。

しかし，私にはいつだって仲間がいました。一人ではどうしようもできないことは必ず助け合って解決する仲間がいました。そんな仲間となら，目指していた学校に近づけることができると思いました。自分だけではなく，仲間の力があるから変えていけるんだということに気付けました。仲間の大切さを分かることができたことが，私の一番の成長でした。

他にも成長できたことはたくさんありましたが，この玖波中学校だったから，皆さんの協力力があったからこそ成長できたのだと思います。

１年間ありがとうございました。

《新生徒会執行部》

《旧生徒会執行部》

震災・事故に思う　～命を守る～

新年を迎え早々に，心が痛むニュースが飛び込んできました。なくなられた方々の御霊に謹んで哀悼の誠を捧げます。

被災地は今現在も大変な状況にあり，ニュースを見る度に，今，玖波学校区で大規模な地震が発生した時，学校現場で生徒の命を預かる人間として，今までの避難訓練のやり方でいいのか，指導者の立場に立った生徒の誘導訓練はできているのか，玖波中学校が避難場所になった時，自分には何ができるのか何をしなければいけないのか等，思い知らされる日々が続いています。

また，航空機の事故において，旅客機では全員が避難することができました。その要因として，客員へ客室乗務員からの冷静で的確な指示，指示に対する客員の的確な行動，客室乗務員のその場の状況判断による指示が挙げられています。これもまた，生徒の命を守る立場にある自分には出来ているのか考えさせられるものでした。

２つのことは，学校現場で生徒の命を預かる使命の重さを痛感するとともに，校内にある石碑に刻まれている「生命は地球より重し」の言葉を思い出させるものとなりました。

保護者・地域の皆様へ

新年あけましておめでとうございます。昨年は本校教育活動にご理解ご協力いただき誠にありがとうございました。本年も引き続きよろしくお願いいたします。本年は昇り龍の如く活気に溢れ，エネルギッシュで上昇の勢いのある学校を目指して頑張ります。